



貯蓄編
月に使えるお金を
あらかじめ決めておく

手元に残るお金があるため、大きな支出の原因になります。必要ではないのに「つい使ってしまう」「そんなケチスを防ぐためにも」と勝手に自動的引き落としされる銀行の積立定期や財形貯蓄を活用し、毎月の貯蓄を基本にするのがオススメです。ボーナスなど大きな額が入った場合は定期預金に入れるのも手段のひとつです。現在メガバンクの普通預金の金利は年0.001%なので、「積りやすさ」には期待できません。近頃はATMの時間外手数料などのムダな支出はNGです。

貯蓄編
月に使えるお金を
あらかじめ決めておく



保険編
民間の保険と公的保障の
バランスを確認する

公的社会保障の変化に合わせて、民間の保険内容も変化してきます。今はマイナスインスの影響で個人年金保険や学資保険などの貯蓄性は低くなっています。保険料と貯蓄のバランスを考えた、「本当に必要な保障は備えているか」「必要のないものに加入していないか」などを定期的に保険を見直していきましょう。「高額療養費制度」などの公的保障制度もあるので、必要な分だけ民間の保険で備えるようにしましょう。掛金が一律な国民共済も検討してみてください。

保険編
民間の保険と公的保障の
バランスを確認する



住宅編
将来のライフプランを
立てて判断する

現在は住宅ローンの金利が史上最低水準になっていますが、不動産価格も高騰傾向にあります。金利が下がっている今だからこそ住宅購入を考えている人もいるかもしれませんが、ただし、安易に住宅購入に踏み切るのは注意が必要です。結婚や親の介護などライフスタイルや将来設計によって住居環境を選択することが大事。明確なビジョンが固まるまでは、貯蓄メリット、デメリットを良く判断して決断しましょう。

住宅編
将来のライフプランを
立てて判断する



まずは
保障の見直しですね。
毎月の貯蓄と併せて、
バランスを見ながら
資産運用も考えてみるのも
いいかも。

家計の中身や保障の見直しから始めて、
コツコツでも貯蓄をしていきましょう。
積金の金利が期待できない状況なので、
リスクを理解した上での投資といった
資産運用を考えるのも選択肢のひとつです。

ファイナンシャルプランナーが解説

**老後破産にならないために
やるべきことって？**

メディアなどで良く取り上げられるようになった老後破産問題。漠然と老後に不安を抱える人も増えています。今からできる対策をプロがアドバイス。

監修

世継祐子さん
FP(ファイナンシャルプランナー) 2級
FP(ファイナンシャルプランナー) 3級
FP(ファイナンシャルプランナー) 4級
FP(ファイナンシャルプランナー) 5級
FP(ファイナンシャルプランナー) 6級
FP(ファイナンシャルプランナー) 7級
FP(ファイナンシャルプランナー) 8級
FP(ファイナンシャルプランナー) 9級
FP(ファイナンシャルプランナー) 10級
FP(ファイナンシャルプランナー) 11級
FP(ファイナンシャルプランナー) 12級
FP(ファイナンシャルプランナー) 13級
FP(ファイナンシャルプランナー) 14級
FP(ファイナンシャルプランナー) 15級
FP(ファイナンシャルプランナー) 16級
FP(ファイナンシャルプランナー) 17級
FP(ファイナンシャルプランナー) 18級
FP(ファイナンシャルプランナー) 19級
FP(ファイナンシャルプランナー) 20級
FP(ファイナンシャルプランナー) 21級
FP(ファイナンシャルプランナー) 22級
FP(ファイナンシャルプランナー) 23級
FP(ファイナンシャルプランナー) 24級
FP(ファイナンシャルプランナー) 25級
FP(ファイナンシャルプランナー) 26級
FP(ファイナンシャルプランナー) 27級
FP(ファイナンシャルプランナー) 28級
FP(ファイナンシャルプランナー) 29級
FP(ファイナンシャルプランナー) 30級
FP(ファイナンシャルプランナー) 31級
FP(ファイナンシャルプランナー) 32級
FP(ファイナンシャルプランナー) 33級
FP(ファイナンシャルプランナー) 34級
FP(ファイナンシャルプランナー) 35級
FP(ファイナンシャルプランナー) 36級
FP(ファイナンシャルプランナー) 37級
FP(ファイナンシャルプランナー) 38級
FP(ファイナンシャルプランナー) 39級
FP(ファイナンシャルプランナー) 40級
FP(ファイナンシャルプランナー) 41級
FP(ファイナンシャルプランナー) 42級
FP(ファイナンシャルプランナー) 43級
FP(ファイナンシャルプランナー) 44級
FP(ファイナンシャルプランナー) 45級
FP(ファイナンシャルプランナー) 46級
FP(ファイナンシャルプランナー) 47級
FP(ファイナンシャルプランナー) 48級
FP(ファイナンシャルプランナー) 49級
FP(ファイナンシャルプランナー) 50級
FP(ファイナンシャルプランナー) 51級
FP(ファイナンシャルプランナー) 52級
FP(ファイナンシャルプランナー) 53級
FP(ファイナンシャルプランナー) 54級
FP(ファイナンシャルプランナー) 55級
FP(ファイナンシャルプランナー) 56級
FP(ファイナンシャルプランナー) 57級
FP(ファイナンシャルプランナー) 58級
FP(ファイナンシャルプランナー) 59級
FP(ファイナンシャルプランナー) 60級
FP(ファイナンシャルプランナー) 61級
FP(ファイナンシャルプランナー) 62級
FP(ファイナンシャルプランナー) 63級
FP(ファイナンシャルプランナー) 64級
FP(ファイナンシャルプランナー) 65級
FP(ファイナンシャルプランナー) 66級
FP(ファイナンシャルプランナー) 67級
FP(ファイナンシャルプランナー) 68級
FP(ファイナンシャルプランナー) 69級
FP(ファイナンシャルプランナー) 70級
FP(ファイナンシャルプランナー) 71級
FP(ファイナンシャルプランナー) 72級
FP(ファイナンシャルプランナー) 73級
FP(ファイナンシャルプランナー) 74級
FP(ファイナンシャルプランナー) 75級
FP(ファイナンシャルプランナー) 76級
FP(ファイナンシャルプランナー) 77級
FP(ファイナンシャルプランナー) 78級
FP(ファイナンシャルプランナー) 79級
FP(ファイナンシャルプランナー) 80級
FP(ファイナンシャルプランナー) 81級
FP(ファイナンシャルプランナー) 82級
FP(ファイナンシャルプランナー) 83級
FP(ファイナンシャルプランナー) 84級
FP(ファイナンシャルプランナー) 85級
FP(ファイナンシャルプランナー) 86級
FP(ファイナンシャルプランナー) 87級
FP(ファイナンシャルプランナー) 88級
FP(ファイナンシャルプランナー) 89級
FP(ファイナンシャルプランナー) 90級
FP(ファイナンシャルプランナー) 91級
FP(ファイナンシャルプランナー) 92級
FP(ファイナンシャルプランナー) 93級
FP(ファイナンシャルプランナー) 94級
FP(ファイナンシャルプランナー) 95級
FP(ファイナンシャルプランナー) 96級
FP(ファイナンシャルプランナー) 97級
FP(ファイナンシャルプランナー) 98級
FP(ファイナンシャルプランナー) 99級
FP(ファイナンシャルプランナー) 100級

早くコースで老後破産のことを目に見えます。
子どもの教育費や住宅購入のことも見えます。
と、将来への貯蓄までできておらず、定年後
の生活が不安になります。
今からやっておくべきことは
ありますか？
福岡市在住 35歳・33歳



日本の人口に占める65歳以上の割合は2015年では26.7%でしたが、2050年には39.6%まで増加する「超高齢化社会」になることが予想されています。これは社会保障制度に大きな影響を与える原因になります。2050年には、年金を高齢者1人に対して1.2人で支える時代を迎えるということです。こうした公的年金制度の崩壊もあり、老後破産の不安を抱える人が増えていくのが現状です。
老後破産の対策として今からできることは、働き盛りの若い時から5日間の貯蓄と別に、老後のためのお金を少しずつ「貯める」「積む」の行動を心掛けること。「じぶん年金」を準備しておくことが大切です。

老後破産につながる主な要因

- 支給される年金が生活費よりも少ない
- 中・高年期を迎えてからの収入の減少
- 医療費が高額になる
- 子世帯との同居や援助がない
- 定年後も住宅ローンが残っている

高齢化の影響などもあり、
暮ら費のライフスタイルも
変化しています。
定年までに貯蓄ができておらず
住宅ローンが残っていたりすると
生活が苦しくなっています。
ライフプランを早急に想定して
おくのがオススメです。



「お金を貯める」基本のルール

老後に必要な資金シミュレーション

65歳まで定年後から、85歳まで生きる想定
生活費が月25万円・夫婦での年金が月20万円
 $5万円 \times 12ヶ月 \times 20年 = 1200万円$

あくまで最低限のシミュレーションです。この金額にプラスして介護や医療費用などの準備を考えるとさらに必要に。

収入を増やす工夫

仕事を辞めようと大膽な収入減となるので、子育てと仕事とのバランスをとりながら共働きをする。定年を過ぎても働ける限りは仕事を続けましょう。自分の健康管理も大切です。

家計のやりくりの基本

- ① 収入の中で生活する
- ② 将来に備えたお金の準備
- ③ ムダな支出を控える

大事なのは毎月の手取り収入の中からやりくりすること。ローンやカードのリボ払いの利息といった支出はできるだけ避けるようにしましょう。